

- 伝灯奉告法要始まる□1
- 阿弥陀さまと私□2
- 新・祖蹟点描□3
- 青色青光□4
- 海南組が伝灯奉告法要へ□6
- キッズサンガ写真特集□8
- 被災地熊本を訪ねて□8
- 響流十方□10
- つれもて聴こら□12



「紀伊国名所図会」に描かれた江戸時代後期の響森御坊

2016年(平成28年)
11月1日
第110号

発行：「御同朋の社会をめざす運動」和歌山教区委員会 〒640-8053 和歌山市鷺森1番地 本願寺鷺森別院内 TEL(073)422-4677 URL <http://saginomori.or.jp/>



伝灯奉告法要始まる

西本願寺で来年5月末まで 80日間

専如門主「み教えを一人でも多くの方々へ」

10月1日から西本願寺で伝灯奉告法要が始まった。一昨年6月6日に法統(浄土真宗の法義の伝統)を継承された第25代専如門主(大谷光淳師)が、宗祖親鸞聖人の顕かにされた浄土真宗のみ教え(法灯)を受け継がれたことを阿弥陀如来と親鸞聖人の前に奉告し、お念仏のみ教えが広く伝わることを願って勤められる大法要。来年5月末までに80日間勤修され、合わせて約20万人の参拝者が見込まれている。



勤修
2日目

海南組が団体参拝

67
特集

△御影堂での法要(本願寺新報社提供)

伝灯奉告法要2日目の10月2日、午後2時から阿弥陀堂と御影堂で同時に始まった法要には、和歌山教区海南組を含む全国各地からの団体参拝のご門徒など2000人近くが参拝。

まず阿弥陀堂で導師を務められた専如門主は、法要の目的を告げる「表白」の



インタビューを受けられるご門主ご一家
長男・敬さまのあいさつに堂内が沸いた

なかで、「親鸞聖人は、釈尊と七高僧のお導きにより阿弥陀如来のお救いに出遇われ、ただ本願のはたらきにまかせ往生成仏する道を、浄土真宗のみ教えとして顕かにしてくださいました」
：「この上は、受け継いだみ教えが一人でも多くの方々に伝わるよう力を尽くしたいと思います」と、力強く述べられた。

お勤めは、新たに制定された奉讃伝灯作法。途中、ご門主は御影堂へと移動され、入れ替わりで前門さまが阿弥陀堂に。堂内に配置されたテレビモニターには、もう一方のお堂の様子が中継され、両堂のご門徒が声を一つにお勤め唱和。

法要後の「伝灯のつどい」では、ご門主が両堂でお言葉を述べられたほか、御影堂では、専如門主、流豆美裏方、長男敬さま、長女顕子さま、前門さま、前裏方さまが並んで席に着かれ、司会者のインタビューに答える形で貴重なお話を披露された。

阿弥陀さま

ハウツー仏事と私

⑫ 式章

お参りや研修会などに参加するときの持ち物3点セットである聖典、念珠、式章のうち、今回は最後の式章についてお話しします。

門徒式章は、門徒の方がお寺の法要・儀式に参拝される際などの正装として身に着ける物です。

僧侶が法衣の上に着用する輪袈裟に似ていることから「わけさ」と呼ばれる方や、小さめの輪袈裟ということで「半袈裟」と呼ばれる方もありますが、輪袈裟と門徒式章は形こそよく

似ていますが、作りや成り立ちがまったく違います。輪袈裟は、僧侶が法要や儀式のときに着用する「五条袈裟」を細長く折り畳んだもので、「豊袈裟」や「豊五条」とも言われています。私たち本願寺派では、第14代寂如宗主(江戸時代初期〜中期)のときから用いるようになりました。

門徒の正装



最新の伝灯奉告法要記念式章を着けて

ルーツは肩衣にあり

一方、門徒式章は「肩衣」を簡素化したものです。肩衣といえは、武士の正装の一つである袴姿が思い浮かびます。門徒の肩衣は、肩の部分がそれほど張ってはいませんが、やはり正装のために江戸時代から用いられるようになりました。

肩衣は携帯するのにかさばることから、本願寺派では、第23代勝如宗主(門

主)の伝灯奉告法要の前年(昭和7年)、新たに門徒式章が定められました。肩衣の襟の部分だけを帯状にして首に掛けられるようにし、両端に紐を付けて結んだ田の写真の物がそれです。宗紋の「下がり藤」を前面の両側と、襟の後ろに当たる部分に配したのは、武士の肩衣における家紋の様式を取り入れたとの説も



門徒式章の原型となった肩衣。襟の下端を帯に差し(後ろは垂らす) (京都・川勝法衣店で)



ラジオ放送番組
みほとけとともに
 - 西本願寺の時間 -

◆毎週土曜日 午前5時50分から
 - 和歌山放送 (WBS) -

和歌山	串本	1431kHz
田辺	すさみ	1233kHz
橋本	高野山	1485kHz
新宮	御坊	1557kHz

あります。

門徒式章の作りは、首に掛けたとき、内側、つまり体の中心に近いほう(襟の後ろでは上側)に折り目があり、外側が縫い目になっ

ていますが、法衣店の方によれば、これはまさに肩衣の襟の変形だからとのこと。ちなみに、略式輪袈裟(豊袈裟になっていない物)は形状が近いようですが、外側が折り目で、内側が開いた形になっており、門徒式章とは作りが違います。本願寺派では、今ではほとんど肩衣が用いられていません。しかし、真宗大谷派(お東さん)では現在も肩衣が用いられ、本願寺派で門徒式章と呼んでいるものは、略肩衣と呼ばれてい

るそうです。

門徒式章には、宗派や本願寺の役職によって規定された物や、身近なところでは、仏教婦人会や仏教壮年会の会員式章、帰敬式受式(きやうしきうけしき)のときの式章があります。本願寺の大きな法要のときには、五条袈裟や輪袈裟と共に、記念門徒式章も制定されます。一番新しい物は、現在お勤めされている第25代専如門主の伝灯奉告法要記念門徒式章です。

法衣店や仏具店ではさまざまな色や柄の式章が販売されていますので、お好みの物を探してみられてはいかがでしょうか。

式章も聖典や念珠と同じように大切に扱います。畳の上など足で踏むところには直接置かず、お手洗いへ行くときには、念珠と同じくいったん外します。

浄土真宗の門徒として常に聖典や念珠と共に携え、お参りの際には着用するよう心に掛けましょう。

(松本教智・「御同朋の社会をめざす運動」和歌山教区委員長)

新

祖蹟点描

12 比叡山 常行堂①

比叡山に親鸞聖人のご足跡を訪ねて、根本中堂、戒壇院、浄土院、横川中堂、恵心院、大乘院、法華総持院を巡ってきた。

その際の導きの糸となつたのは、親鸞聖人のひ孫・覚如上人の筆になる『本願寺聖人親鸞伝絵』と『報恩講私記』のお言葉だった。前者は聖人の御一代記であり、後者は聖人33回忌法要の次第と表白だが、その表白の部分に聖人の生涯が述べられているのだった。これらの聖人讃仰のお言葉から、親鸞聖人の比叡山

現在は西塔にだけ残る法華堂⑥と常行堂⑦。両堂合わせ担い堂とも



親鸞聖人の内室・恵信尼公の書状に記された「堂僧」の一語

習学時代に関していかに貴重な情報を読み取ることができるかについては、連載

ら眺めた場合には、あまりにも美しい語り口と見事な漢語的表現の連続のなかに

のなかで述べてきた通りである。ただし、これらを近代以降の実証的歴史学の観点からよみがえってきたかのよう

親鸞聖人の生身の存在が解消されてしまうという感じを受けなくてもよかった。そのようなときに一条の光となったのは、大正10年に西本願寺の宝庫で発見された親鸞聖人の内室(奥さま)である恵信尼公のお手紙だった。お手紙は8通あり、いずれも末娘の覚信尼公に宛てられたものである。恵信尼公は、親鸞聖人が弘長2年(1262)11月28日にご往生されたとき、自身はその臨終に立ち会うことができなかったため、臨終に立ち会った末娘の覚信尼公から、12月1日付でその様子を知らせる手紙を受け取った。

恵信尼公は、その手紙に對する返書の冒頭に、殿(親鸞聖人)が浄土にご往生されたことは確かなことと、改めて申すに及びませんとこの言葉を記されたあと、脳裏に親鸞聖人の思い出がよみがえってきたかのよう

あり、その内容については、本連載で回を追って触れる機会があるが、ここで問題なのは、この手紙の本文の前の余白に、やや小さな文字で書かれた添え書きのなかの一節である。

そこには「殿のひへのやまにたうそつとめておはしましけるか」(『原典版聖書』891頁)——親鸞聖人は比叡山で「たうそつ」をつとめておられましたが——とあり、ここに記された「たうそつ」の一語が、親鸞聖人の比叡山での具体的な立場を表す言葉として注目を集めたのである。「たうそつ」とは「堂僧」であるとの説で落ち着いている。堂僧とは、常行三昧堂(常行堂)において不断念仏を行ずる僧を指すという。では不断念仏とは

いかなる行だったのか。これについては次回述べる。親鸞聖人が比叡山におられたころには、東塔、西塔、横川にそれぞれ常行三昧堂があったというが、現在残るのは西塔だけである。

根本中堂から浄土院を経て西塔の本堂である釈迦堂(転法輪堂)へ向かうと、釈迦堂へと下りる階段の手前に、道をはさんで向かって右に法華堂が、左に常行堂がある。そして、渡り廊下が道をまたいで二つのお堂を結び付けている。

渡り廊下を棒と見なせば、あたかも左右のお堂が天秤棒で担がれた形に見えることから、両堂合わせて「担い堂」とも呼ばれている。

【参考文献】千葉乗隆『恵信尼さまの手紙』(探究社) (本紙編集部)

比叡山 常行堂

場所 滋賀県大津市坂本町42220
電話077(578)0001(代)

交通 京都駅でJR湖西線に乗り換え13分、「比叡山坂本」駅下車、同駅前から江若バス・ケーブル坂本線で7分、「ケーブル坂本」駅下車、坂本ケーブルに乗り換え11分、「ケーブル延暦寺」駅下車、徒歩30分。

青色青光

7月9日、和歌山市民会館小ホールで第23回「平和を希う念仏者の集い」が開かれ、教区内僧侶・門信徒247人が参加した。この集いは、いのちの尊厳を守る取り組みの一環として、和歌山大空襲の日に、非戦平和を願う心を伝えていこうと毎年開催されている。

非戦平和の願いを過去から学ぶ

各組代表者による献花



いのちが御同朋・御同行として自他共に心豊かに生きる平和な社会を築くため努力いたします」と述べた。
お勤めに続き、女性コーラスグループ「かりようびんが」が仏教讃歌を披露。美しい歌声で仏さまのお徳を讃えた。

法要は各組代表者の献花で始まり、15人の僧侶がステージ上にそろい、お勤めがスタート。
導師を務めた中岡順忍和歌山教区教務所長は表白で、戦争に加担した過去を振り返り、その反省を踏まえ、私たち念仏者のあるべき姿を仏前で表明。

記念講演では、安齋育郎さんが「現代日本にとっての非戦・平和を考える」と題し、消極的平和(戦争がない状態)から積極的平和(暴力のない状態)へと向かうべきとの考えを示した。

寺院活動の将来を考える

鷺森別院で第10回宗勢基本調査教区説明会

9月29日、宗派から西光義秀調査員ら3名が出向し「第10回宗勢基本調査教区説明会」が鷺森別院本堂で開催され、教区内から僧侶・門信徒ら95人が参加した。この説明会は、昨年2月から5月にかけて行われた

宗門の一般寺院・非法人寺院の現況調査に基づくもの。出向者によれば、和歌山教区の傾向として、全国平均と比べて通夜・葬儀で法話をしている住職の割合が少ない、寺報の発行やホームページの開設など広報活

動に力を入れている寺院が少ない、門徒宅での法事の際に僧侶の滞在時間が短いなどの指摘がされた。全国平均を上回る例としては、キッズサンガの認知率の高さが報告された。参加者らは、今後の寺院活動を考える手がかりになればと、調査報告に聞き入っていた。

仏教青年連盟 結成50周年迎える

西本願寺で世代越え記念の集い

10月9日、京都の西本願寺で「伝灯奉告法要協賛・仏教青年連盟結成50周年記念の集い」が開催され、和歌山教区から12名が参加。この大会は「温故知新くうけつぐ伝灯、伝えるよろ

こびく」をテーマに、結成から50年をかつて活躍した先輩らと共に振り返り、次の50年に向け仏教青年活動のあり方を提案していくことを目的として開催した。会場には、教区ごとの活動報告(50年の歩み)が、大判の用紙に文字や写真でまとめられ、参加者らは自分たちの新たな活動のヒントにしようと、展示に見入っていた。各教区と中央連盟の教化団体が設けたブースでは、参加者らが世代を越えて交流を深めた。



和歌山教区仏青のみなさん



第23回 平和を希う念仏者の集い
— 全戦没者追悼法要 —

今年には市民会館小ホールで行われた平和の集い

第23回 平和を希う念仏者の集い

夏休み、子どもたちがご本山で清掃奉仕

今年で
44回目

児童念仏奉仕団に参加

和歌山教区少年連盟

7月25日から26日の2日間、西本願寺で開催された今年度第1回の児童念仏奉仕団に、今年7月25日から26日の2日間、西本願寺で開催された今年度第1回の児童念仏奉仕団に、今年初日は開会式に引き続き、



子どもたちのパワーに圧倒される畳拭き(御影堂)

青色青光

木造建築物で日本最大級の規模を誇る御影堂の外陣の畳拭きで汗を流した。清掃奉仕の後には、15人程度で1班をつくり、本願寺探検「龍の子探検隊」に挑戦した。これは本願寺境内11カ所でクイズに答え、そ

新教区3団体 役員

教区内3団体で役員の改選がなされ、今年度から新たに左記の方が就任された。

■門徒総代会

▽会長 山本勇(和歌山北組慶圓寺)

▽副会長 八尾進(和歌山西組正善寺)、平畑栄治(有賀組安楽寺)

▽会計 山田英一(御坊組源行寺)

▽監査 福呂瑞穂(和歌山組法林寺)、田村寿英(海草組正光寺)

▽委員 中村裕(和歌山東



暑さに負けず元気に探検

の解答でクロスワードパズルの暗号を解くもの。阿弥陀堂、御影堂をはじめ国宝飛雲閣や書院などを探索し、

御堂にある魚やひょうたんの形をした埋木、書院の襖絵を題材にしたクイズを解きながら、阿弥陀さまや本願寺について学びを深めた。2日目は、眠い目をこすりながら、朝6時から始まるお昼朝に参拝し、正信偈をお勤め。

ご門主とのご面接では、児童の代表者が緊張しながらも団体名を名乗り、記念撮影を行ったあと、ご門主からお言葉を頂戴した。帰りに寄った京都水族館では、一人ひとりにストローで作られた笛が渡され、イルカとコミュニケーション。笛を吹くたびに体の動きで応えるイルカに、子どもたちは大喜び。

西照寺)

▽副会長 竹本淳一(和歌山組西法寺)、阪本志津子(和歌山東組正願寺)

▽監査 山本圭子(和歌山北組慶圓寺)

▽理事 貴志幸子(和歌山西組建徳寺)、九鬼一夫(有田北組浄念寺)、山本如(日高組荘厳寺)、赤山ヤヨイ(有田南組興善寺)、

峠原佐和子(有田南組興善寺)

任期は2年(平成30年3月31日まで)。(敬称略)

組浄明寺)、中村繁治(加茂組真教寺)、榮川誠(海南組西光寺)、谷口庄亮(伊那組西照寺)、竹中康夫(有田南組円光寺)、川嶋保弘(有田北組教徳寺)、田端三津雄(日高組宝国寺)、蒲田嵩(紀南組勝徳寺)

任期は2年(平成30年3月31日まで)。

▽委員長 木下真人(御坊組善妙寺)

▽副委員長 山本行圓(伊那組蓮乗寺)、亀井道子(有田北組發願寺)

▽会計 庵戸眞道(紀南組安楽寺)

■少年連盟

任期は4年(平成32年3月31日まで)。

▽会長 谷口庄亮(伊那組

▽門徒推進員連絡協議会

喜び胸にお勤め唱和

伝灯奉告法要

勤修2日目、海南組から10カ寺156人が団体参拝



伝灯奉告法要2日目となる10月2日、和歌山教区内寺院の先頭を切り、海南組が団体参拝。組内20カ寺中、10カ寺から合わせて156人がバス4台でお参りした。午後2時からの法要参拝は阿弥陀堂で。この日の団体参拝は、北は北海道から南は熊本までの15教区。御影堂と合わせて2000人近いご門徒が、専ら門主が法灯を受け継がれた喜びを胸に、声を合わせて正信念仏偈をお勤め。続く3時からの「伝灯のつどい」では、ご門主からお言葉を頂いた。
4時に退堂後は、書院・飛雲閣拝観など。4時30分からの帰敬式は38人が受式。5時30分、法要の余韻に浸りながら帰路へ。まことに尊いご縁となった。

阿弥陀堂内陣のお飾り

海南組のご門徒から感動の声声

正信偈のお勤め胸に響く
諸木良介(光徳寺)
ご勝縁に恵まれ、阿弥陀堂正面最前列にて新門主さまのお姿を目の当たりに拝し、続く奉讃伝灯作法での正信偈の朗誦は胸に響きました。
また「伝灯のつどい」では、大谷宗家の平常そのまの和ましいご様子に接することができ、門徒として幸せが心に広がりました。

西本願寺の全ての歴史的建造物の片隅に、深い御簾の向こうに美しい十二単をまとった貴婦人がお座りになっておられるような感覚で、飛雲閣を拝観させていただきました。この素晴らしい建造物が、いつの世も人々を感動させてくれることを強く願います。
池下博章(西専寺)
初めて西本願寺に参拝し、寺院の大きさ、古さ、境内の広さに歴史を感じながら伝灯奉告法要に参拝できたことに深く感動しました。門信徒の方々の多さに圧倒され、法要のすごさを味わいつつ参拝させていただきましたことに感謝しています。帰敬式も受けることがで

き、法名を授けていたのだことで、喜びと安心感を持つことができました。
雅楽とお勤め素晴らしい
藤田和子(西法寺)
西本願寺を挙げての盛大な法要に参拝するという貴重な経験をさせていただきました。雅楽の演奏や皆さまが心を一つにしたお勤めなど、素晴らしいかったです。
飛雲閣は2度目の拝観、書院は初めて拝観できて良かったです。

宗門の絆、改めて実感
立花美一(浄国寺)
正信念仏偈の勤行は、壮大なスケールで圧倒され、私もそのなかの一員としてお勤めしているのだと思ひますと、何か熱いものが込み上げ、改めて私たち宗門の絆・結束を感じました。
ご門主が著書『ありのままに、ひたむきに』を刊行された意図について、お寺にご縁のある方々はもちろんですが、これからはお寺にご縁のない方々にも阿弥陀さまの教えを感じていただければ、と述べられたのが特に印象に残りました。
帰敬式は2度目の誕生日
藤本敏弘(了賢寺)
法名を頂きたいと思ひながら、なかなか機会がなかったのが、今回の法要参拝で念願がかないました。
明かりの少ない御影堂は幽玄の世界のようで、ご門主が内陣からお姿を現されたときは、荘厳さと厳肅さで緊張いたしました。ご門主から頭に三度お剃刀を当てていただき、70歳にして2度目の誕生日を迎えたいように思います。

精いっぱいの声でお勤め
岡本俊史(安養寺)
雅楽が演奏されるなか法要が始まりました。散華・表白のあと、ご門主と会場いっぱい僧や門徒の方々の大きな声に導かれ、思わず私も精いっぱい大きな声でお勤めしていました。30度を超える蒸し暑さのなか、汗をかきながら一同が声を一つにし、ご門主が法灯を継承されたことを心から喜び合う時間であったと思ひます。

法名拝受の代表思い出に
坂本廣光(教専寺)
帰敬式を受け、ご門主から法名を頂くことができました。誠に有難く感激いたしました。法名拝受の際、代表してご門主から直接法名を受け取ったことは、一生の思い出となりました。混沌とした世の中を生きていく上で、日々の出来事をありのままに受け止め、ひたむきに精いっぱい生きていくことを生きるよりどころになると。ご門主のお言葉にフーと肩の力が抜けた気がいたしました。
法灯、さらに未来へ
参拝者一同(遍照寺)
当寺からは16人が参拝いたしました。お勤めが一緒に唱和しやすかったこと、門主ご一家にお会いできたことで、蒸し暑さも吹き飛んでしまいました。
特にご門主のお子さま方を拝見すると、自分たちのひ孫を見るようで自然と顔がほころび、法灯がさらに未来へとつながっていくことに喜びを感じました。



伝灯のつどいでお言葉を述べられる専ら門主(阿弥陀堂)

秋の一日ご本山で尊いご縁



三色幕が鮮やかな御影堂門



御影堂をバックに記念撮影



境内白州に設けられたおらカフェ&マルシェ「AKARI」は憩いの場に

和歌山東組 **7/30** **60人** **桃善寺**

古道具
で先祖を訪ねて

子ども・若者ご縁づくり
フォト・ニュース Photo News

楽しい初めが
いっぱいある!!

キッズサンガ
HONGWANJI

紀南組 **8/25** **32人** **安楽寺**

ながし
そうめん

海南組 **8/27** **58人** **了賢寺**

みんなで
お掃除タイム

伊那組 **8/2** **43人** **教善寺**

正信偈
お勤め

御坊組 **8/19** **300人**

日高別院

フェイス
ペイント体験

和歌山西組 **7/3** **93人** **鷲森別院**

ホットドッグ
づくり

有田南組 **9/10** **91人** **教専寺**

ポン菓子

日高組 **8/20** **23人** **長覚寺**

水鉄砲

被災地熊本を訪ねて

本派社会福祉推進協議会
和歌山教区支部副支部長
伊那組光明寺前住職

宇多光誠

4月14日以降相次いで発

生した熊本地震によって、
宗門でも23人の門信徒が亡
くなり、486カ寺が被災
(8月1日現在)するなど
甚大な被害が出ている。

本派社会福祉推進協議会
和歌山教区支部では、現状
を自分たちの目で見て、現

地の方々の話をしっかりと

聞き、われわれとしてでき
る支援を探ってみよう、ま
た心配されている南海地震
について考える一助になれ
ばとの思いも込めて、6月

30日から1泊2日の日程で
熊本の被災地を訪ねた。
訪問団は、中岡順忍教務

所長を団長に、荻野昭裕さ
ん、溝根史さん、立花美一
さん、藤沢六雄さん、川瀬
光子教務所職員と私。

前日の豪雨の影響による
鉄道の遅延で、JR熊本駅
に着いたのは午後3時過ぎ。
レンタカーを借りて急いで
熊本別院へ。

熊本別院輪番・熊本教区
教務所長の辰利信さんから
被害状況のあらましを聞く。
熊本教区は28組466カ
寺。そのうち実に322カ
寺(8月1日現在)が本堂、
山門、庫裏(寺族の居住ス
ペース)などに何らかの被

害を受けた。事務所の壁一
面に、熊本市を中心に被災
寺院の場所を記した地図が
張られている。

消防庁によれば、地震に
よる被災戸数は、住宅の全
壊8204棟、半壊3万3
90棟(9月30日現在)と
いうから、被災されたご門
徒はどれほどの数になるの
か。せめてもの思いで社推
協和歌山支部からの義援金
をお渡しした。翌日は朝か

ら被災寺院を3カ寺訪ねる。
【益城郡益城町・専寿寺】
専寿寺では本堂、庫裏、
鐘楼すべてが倒壊し、半壊

の土蔵一つだけが残ってい
る。がれきの中に真新しい
白い鼻緒の下駄が片方だけ
落ちていた。その日まで法
務をされていた日常が、地
震を境に断ち切られている。
高千穂住職は不在で直接お
話を伺うことはできなかつ
たが、周辺の門徒も全壊・
半壊など多数被災しており、
復旧復興には幾多の困難が
予想できる。

【益城郡嘉島町・光恩寺】
光恩寺は、山門の支柱が
楚石からずれ落ちて傾き、
かろうじて立っている状態。
江戸時代建立と思われる
七間四面の本堂は、大屋根
を支えていた柱や棟などの
骨組が、崩落した壁土や窓
ガラスの破片の上にねじれ
て残っている。

は語ってくれた。
現在は家族5人で寺から
少し離れたIDKに住んで
いるそうである。

【熊本市東区沼山津・浄福寺】
浄福寺は、全壊した本堂
の立っていた場所が今は更
地となっている。その奥に
墓地が見えるが、いくつか
の墓石が傾いたり転げ落ち
たりしている。鉄筋の納骨
堂など2棟と新築したばかりの庫裏は壁に少しヒビが入ったくらいで残っている。

本願寺関係のボランティアの方が大勢来て、いち早く片つけてくれました。有り難かったですよ、費用も随分違いますしね。浄住職がそう語ってくれた。

被災地を訪れ、あらためて一刻も早い復旧・復興を願わずにいられない。しかし被災寺院では、頼りとするご門徒も多くが深く傷ついている。教団として末永い支援が必要である。そして、やがて来るであろう南海地震が脳裏をよぎる。さまざまな思いを抱えて熊本を離れた。



倒壊した庫裏の撤去作業が続く専寿寺



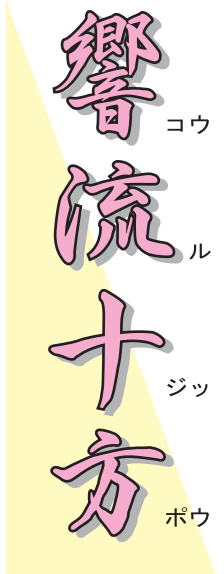
本堂の軒が崩落した光恩寺



浄福寺では全壊した本堂跡が更地に

大変だ、と若い佐々木住職

を離れた。



11〜12月の催し

本山

11月4〜11日 伝灯奉告法要(第3期)

11月17日 本願寺首御堂2016

11月18〜25日 伝灯奉告法要(第4期)

11月28日 秋の法要(全国門徒総追悼法要)

12月20日 御煤払
12月31日 除夜会

和歌山教区

11月5日 勸式講習会(鷺森別院)

11月14日 仏教婦人会連盟委員研修会(津村別院)

11月15日 教区門徒推進員

聞法のごとく(鷺森別院)

11月16日 教区仏教婦人会連盟清掃奉仕(鷺森別院)

11月21日 教区少年連盟委員会(鷺森別院)

11月24日 教区寺族女性会のごとく(鷺森別院)

11月25日 教区門徒総代会のごとく(鷺森別院)、和歌山教区 責任役員辞令・門徒総代登録証伝達式(鷺森別院)

11月26日 教区仏教壮年会連盟のごとく(鷺森別院)

11月27日 教区仏教婦人会連盟のごとく(鷺森別院)、社会福祉推進協議会和歌山教区支部チャリティバザー(鷺森別院)、和歌山教区住職・衆徒・寺族物故者追悼法要(鷺森別院)

12月1日 社会福祉推進協議会和歌山教区支部街頭募金(JR和歌山駅、南海和歌山市駅)

12月3日 勸式講習会(鷺森別院)

12月7日 和歌山教区布教団連統法座(鷺森別院)

12月8日 近畿ブロック寺族婦人研修会(本願寺津村別院)

12月10日 和歌山教区キッズサンガ子ども報恩講(鷺森別院)

12月15日 教区門徒推進員聞法のごとく(鷺森別院)

12月27日 御用納め(教務所)

教区内各組

和歌山組

11月2日 仏教壮年会・門徒総代会合同報恩講(養尊寺)

11月10日 仏教婦人会連盟研修会(鷺森別院)

12月2日 寺族婦人会報恩講(本弘寺)

12月17日 組内会、実践運動住職・僧侶研修会(鷺森別院)

12月25日 和歌山組キッズサンガ(鷺森別院)

和歌山東組

12月17日 僧侶・寺族研修会、忘年会(鷺森別院)

和歌山西組

11月6日 第16期門徒推進員養成連続研修会⑩(徳号寺)

12月3日 実践運動僧侶研修会、組内会(浄福寺)

和歌山北組

11月19日 第12期門徒推進員養成連続研修会③(浄源寺)

海南組

11月19日 第3期門徒推進員養成連続研修会①(了賢寺)

海草組

12月未定 組内会(会場未定)

伊那組

11月末 小委員会・役員会(かつらぎ町・極楽寺)

12月未定 組内会(かつらぎ町・極楽寺)

有賀組

12月10日 組内会、僧侶研修会(専念寺)

有田南組

11月未定 組内会(称念寺)

有田北組

11月13日 今度こそはポッポ道を歩こう！有田北組キッズサンガ(西光寺)

12月23日 寺族・僧侶研修会、組内会(有田市内)

12月下旬 「みかん講」本山進納式(西明寺)

御坊組

12月26日 僧侶研修会(日高別院)

紀南組

11月未定 組総代会研修会(未定)

得度

7月 宮脇茜(和歌山東組浄徳寺)

8月 横出未知歩(和歌山北組教願寺)

中井大(日高組円行寺)

教師

9月 田伏洋(御坊組長楽寺)

敬弔

堀當枝(御坊組金藏寺・住職) 7月11日

楠山光子(御坊組浄専寺・前任職) 7月26日

蘭田香融(和歌山組妙慶寺・前任職) 8月4日

ご生前のご活躍ご尽力に感謝申し上げ、謹んで敬弔の意を表します。

鷺森テレホン法話 おにしさん 073-422-0243

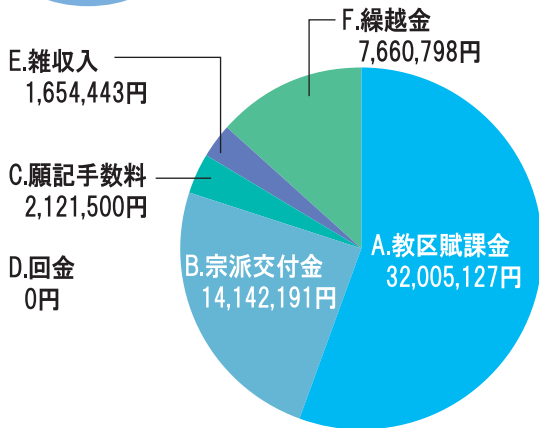
日高組

12月11日 日高組第22回真宗法座・第九期門徒推進員養成連続研修会修了式・組報ひかり発刊100号記念法座(蓮専寺)

2015年度 和歌山教区一般会計歳計決算

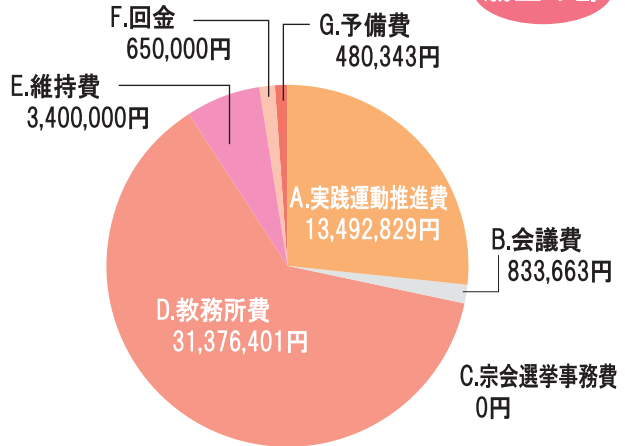
(自平成27年4月1日～至平成28年3月31日)

歳入の部



歳入合計 57,584,059円

歳出の部

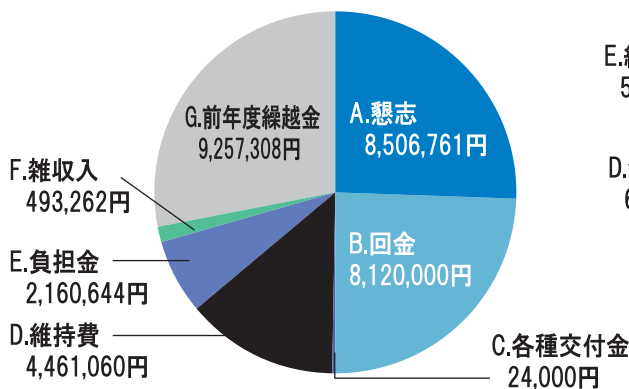


歳出合計 50,233,236円

2015年度 本願寺鷺森別院一般会計歳計決算

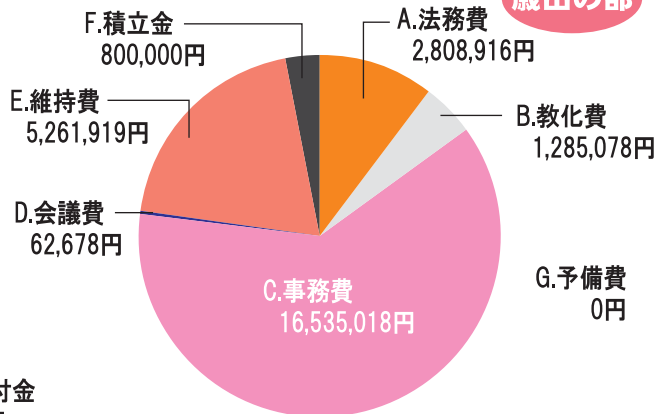
(自平成27年4月1日～至平成28年3月31日)

歳入の部



歳入合計 33,023,035円

歳出の部



歳出合計 26,753,609円

鷺森別院の催し

報恩講

11月24日から28日の5日間、報恩講が勤修される。27日までは、毎座午後1時30分からお勤め、2時ごろから岩本孝樹師(奈良市杏町・常蓮寺)の法話。28日は午前10時からお勤め、引き続き、法話。27日は正午から本堂で、恒例のチャリティーバザーを開催。午後7時から御伝鈔拝読、引き続き教区布教団主催で

通夜布教が行われる。報恩講に合わせ各団体が午前集いを開催。24日は寺族女性会、25日は門徒総代会、26日は仏教壮年会連盟、27日は仏教婦人会連盟、常例法座

常例法座

11月15、16日、境山慈仁師(檀原市見瀬町・福栄寺)。12月15、16日、中原昭俊師(尼崎市南清水・専正寺)。
 (本願寺鷺森別院 和歌山市鷺森1番地 電話073-4221-4677)

日高別院の催し

報恩講

12月2日から4日の3日間、報恩講が勤修される。講師は佐々木大乗師(山口県周南市鹿野上・真行寺)。2日は午後1時15分から御坊幼稚園園児、保護者の参拝日。3日は、午後1時30分から正信偈をお勤めし、御伝鈔拝読。その後、午後4時ごろまで法話。この日は御坊組の門徒総代会・仏教壮年会・連研修了者の参

除夜会

12月31日午後11時30分から本堂で讃仏偈をお勤めし、除夜の鐘を突く。
 (本願寺日高別院 御坊市御坊100 電話0738-221-0518)

12月2日から4日の3日間、報恩講が勤修される。講師は佐々木大乗師(山口県周南市鹿野上・真行寺)。2日は午後1時15分から御坊幼稚園園児、保護者の参拝日。3日は、午後1時30分から正信偈をお勤めし、御伝鈔拝読。その後、午後4時ごろまで法話。この日は御坊組の門徒総代会・仏教壮年会・連研修了者の参

つれもて 聴こら

阿弥陀如来という仏さま

は、五劫というとても長く長い時間をかけ、すべての者を仏とするためにはどうしたらいいかを考えに考え抜かれました。

しょうか。

親鸞聖人の弟子である唯円は、『歎異抄』という書物に次のように記されています。

柳岡直樹

——聖人(親鸞)のつねの仰せには、「弥陀の五劫の思惟の願をよくよく案ずれば、ひとへに親鸞一人がためなりけり」——(『註釈版聖典』8103頁)



あると受けとめられ、喜ばれたのです。

そもそもなぜ阿弥陀さまは五劫という長い時間をかけなければならなかったのでしょうか。

私たちは日々の生活の中で時には様々な苦しみや痛みに悩まされながら生きています。自分自身の苦し

いはどうでしょうか。例えば、腰痛で寝込んだ

ことのある人の気持ちというのは、同じ体験をしたことのある人でしか理解することができません。また、

風邪で寝込んだことのない人からすれば、風邪で寝込んでいる人の気持ちを理解することができません。な

私がいるから阿弥陀さまがいる

もなく長い時間を表します。この阿弥陀さまのご苦労について親鸞聖人はどのよう

に受けとめられたので親鸞聖人は、阿弥陀さまが五劫というとても長く長い時間をかけてご苦労されたのは、私一人のため

というのは、自分が体験していませんから当然その辛さがわかりません。しかし、自分以外のものの苦しみにつ

ぜなら、その人と同じ痛み、苦しみを体験したことがないからです。阿弥陀さまが五劫とい

“親鸞一人がためなりけり”のお心

とてつもなく長い時間をかけてくださったのは、阿弥陀さまという仏さまが、私のことをすべて理解するた

めだったのです。長い長い時間をかけて私と同じ体験をしてくださり、苦しみや痛みをすべて理解して

くださったのが阿弥陀如来という仏さまなのです。ですから、阿弥陀さまは私の悲しみや苦しみをすべて分かってくださる唯一の仏さまなのです。さらに私

たちがまだ経験していない、理解していない私自身のことさえも阿弥陀さまは分かってくださっているのです。そのすべてを知るために五劫というとてもな

く長い時間が必要だったのです。親鸞聖人はこの五劫もの時間を“親鸞一人がため

と受けとられ阿弥陀さまのお心を喜ばれました。なぜ親鸞聖人はこのように受けとられたのでしょうか。

例えば、ある人が子どもを産んだとき、その人は当然「親」となります。子どもが生まれたからこそ親は親となるのです。阿弥陀さまと私の関係もこれと同じ

です。私がいるからこそ阿弥陀さまという仏さまになってくださったのです。私がいるからこそ無量の命を生きてくださっており、五劫もの長い時間、私のためにご苦労をしてくださったのです。

逆にいうと、私がいなかったら阿弥陀さまは五劫ものご苦労をする必要も、仏さまに成る必要もなかったのです。

親鸞聖人は、阿弥陀さまのご苦労を、私に成るからこそ、私のために成就してくださったのだと心より喜ばれたのでした。

(御坊市蘭・常照寺) 7月16日の鷲森別院常例法座の法話から

7月16日の鷲森別院常例法座の法話から